平成 26 年度第 1 回石狩市男女共同参画推進委員会

【日 時】 平成 26 年 7 月 29 日 (火) 18:00—19:15

【場 所】 市役所 3 階 庁議室

【出席者】

委 員			職 員 (事務局)			
役 職	氏 名	出欠	所 属	役職	氏 名	出欠
委員長	阿部 包	○	環境市民部長	部長	三国 義達	○
副委員長	高田 良次	○	広聴・市民生活課	課長	田村 奈緒美	○
委 員	岩田 眞智子	○	広聴・市民生活課	主幹	吉田 雅人	○
	設楽 正敏	○	広聴・市民生活課市民活動 担当	主査	清水 千晴	○
	佐藤 弘美	○		主任	渡邊 史章	○
	荒川 よし子	○		主事	瀧坪 真里依	
	築田 純子	○				
	阿部 文子	○				
	草島 猛	○				
	工藤 美和子	○				
	袴田 律子	○				
若林 厚一郎	○					

【傍聴者】 0 人

=====

【阿部委員長】

これより平成 26 年度第 1 回石狩市男女共同参画推進委員会を開催します。袴田委員がまだお見えではありませんが、揃うと全員ということになります。それではまず、この委員会の所管部署の変更及び人事異動について、報告を受けます。

【事務局(三国)】

ご苦労さまです。私の方から報告させていただきます。私は環境市民部長の三国と申します。よろしくお願いたします。まず所管部署の変更ですが、これまで企画経済部の市民の声を聴く課が所管していましたが、市民の皆様と直に接する課として市民の声を聴く課の他、昨年まで市民生活部とっていた部にも市民生活課がありまして、この度この 2 課の統合が行われました。また我々の部も環境市民部という名称に変わり、課の名称も広聴・市民生活課となって新たにスタートしています。町内会、市民団体、NPO 法人、消費者関係、男女共同参画とかなり広範囲に亘っておりますが、この男女共同参画もある意味人権問題とも絡むということを考えた時に、もともと市民生活課では人権擁護に係る業務の担当部署ということで、こういった問題もグローバルに取り扱っていけないのではないかと考えているところです。では職員を紹介します。担当課長であります、広聴・市民生活課長の田村です。

【事務局(田村)】

田村です。どうぞよろしくお願いいたします。

【事務局(三国)】

次に、私どもの部では広聴・市民生活課のみなのですが、主幹を配置しております。広聴・市民生活課主幹の吉田です。

【事務局(吉田)】

吉田です。どうぞよろしくお願いいたします。

【事務局(三国)】

当推進委員会の担当主査の清水です。

【事務局(清水)】

引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

【事務局(三国)】

同じく担当の渡邊です。

【事務局(渡邊)】

渡邊と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

【事務局(三国)】

私の報告は以上です。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

【阿部委員長】

本日の内容ですが、まずは報告事項です。1点目に今年度の実施事業について、2点目に、今年度の重点的に取り組む視点について、3点目に第2次石狩市男女共同参画計画の進捗状況の報告を受けます。次に協議事項として、各種調査について協議する予定です。本日は前回の会議からの継続案件がメインであることから、午後7時 30 分頃の終了を考えています。円滑な審協議を進めるためにご協力をお願いします

事務局から事前に送付された資料として、『第2次石狩市男女共同参画計画』の冊子、『平成21年度 男女平等に関する市民意識調査報告書』の冊子はお持ちでしょうか。お持ちでない方は、事務局にお伝えください。

では議事に入ります。まずは今年度の実施事業について、事務局は説明をお願いします。

【事務局(清水)】

今年の4月から7月までに実施した事業について報告します。本日の会議資料の1ページ目をご覧ください。6月には男女共同参画関連事業としてパネル展を実施し、広報いしかりには特集ページを掲載しました。いずれも主なテーマは、国の今年度のテーマと合わせ、「父親のワーク・ライフ・バランス」としました。その他、パネル展では男女の役割分担意識に関するものや、審議会等委員の女性登用促進に関する内容、また例年実施している男女共同参画についての意識調査等について掲示しました。気がついた点としては、パネル展で一部を掲示した、厚生労働省発行の『父親のワーク・ライフ・バランス～応援します！仕事と子育て両立パパ』の冊子を設置して配布したのですが、約 60 ページの厚さにも拘わらず無くなり、何回か補充したことから、関心が高くなっていると

感じられました。また、毎年度実施している意識調査で「夫が妻に暴力をふるうのは、夫婦げんかの範囲だと思いますか」の設問に対し、「思う」と答えた人がいませんでした。私が平成 21 年度から担当して初めてのことで、嬉しい結果だと感じられました。次に7月には、第2次男女共同参画計画で定めた「女性・男性それぞれの自立」及び「地域に根ざした男女共同参画」に係る取組として、シニアプラザはまなす学園の 1 コマをいただいて男女共同参画連携講座を実施しました。テーマを「いきいきシニアライフ 支え合う社会へ」とし、講師にNPO法人シーズネットの理事長の奥田龍人さんにお越しいただきました。参加者は女性 61 名、男性 16 名の計 77 名でした。出席者からの感想としては好評で、男性参加者から「高齢者社会を生きる高齢者として、様々な課題があり、男性としてより一層の対応が必要と知った」といった感想もいただきました。同じく7月に、ワーク・ライフ・バランスの促進に係る事業所等への働きかけとして、石狩市雇用・労働基本調査票送付時に、両立支援助成金制度に関する資料を送付しました。次にDV関連では、4月にデートDV防止啓発パンフレットを配布しました。市内の翔陽、石狩南高校及び藤女子大学花川キャンパスの1年生等に配布したところ です。

【阿部委員長】

ご発言いただく前にお願ひがあります。議事録作成のために録音をしていますので、私に指名されてから発言していただきますようお願いいたします。また、なるべく大きな声でご発言ください。それでは、ご質問などがありましたらお受けします。

7月の男女共同参画連携講座に出席された委員の皆さんはいかがですか。

【築田委員】

自分自身が経験していないことについて、経験をたくさん積まれた方のお話をあらためて聞くと、他人ごとではない状況になっているんだなということを感じました。家族ってなかなか思う通りに動いてくれないものだから、他人の力を借りないと思うようにはいけません。家族ってわがままだし、喧嘩になってしまうから、介護の方が来てくれると本当に助かります。講師の奥田さんの話と自分の家族の話が重なりました。講演を聴いて良かったと思いました。

【高田副委員長】

一番初めにシニアの自立という言葉聞いて、何だろうと最初は戸惑いました。要するに、公助、共助、自助という言葉がありますが、シニアの自立というのは地域社会の中で公助に頼らない生活の仕方ということでお話をされていました。また地域で支え合うというのは、言葉では簡単なのですが、中に入っていくのはすごく大変だということで、民生委員の方で、女性は割と入りやすいのだけど、男性だと他人の家庭に入っていくのは大変な労力が要するということでした。その中でもやはり、少子高齢社会になっていって、地域の中で公助に頼らないでやっていく、地域での自立を目指さなければならないという話はなるほどと感じました。

【若林委員】

奥田先生はユーモアたっぷりに説明されていました。これから社会に向かっていろいろなことが出てくる時に、みんなが助け合い支え合うという気持ちでやっていかなければ、これから乗り切っていけないのではないかと説明されて、私も感銘を受けました。

【阿部委員長】

ありがとうございました。番組名は忘れましたが、最近のNHKの番組で、関西の取り組みが報じられていて、一般市民のボランティアが活動し、そのボランティアの組織化の役割を地方自治体が担い、実際に動くのは一般の市民。そういったことが上手くいっている秘訣のようでした。ですから今後は石狩市でも、市はコーディネート役になって、一般市民が関心を持って働くというようなシステムを作ったら良いのではないかと思います。

次に、平成 26 年度の重点的に取り組む視点について、事務局は説明をお願いします。

【事務局(清水)】

前回の会議でご提案した「子どもの男女共同参画」については、委員の皆様から様々な意見をいただいたことを踏まえまして、今年度は重点として扱わず、第3次計画の策定作業の中で検討していくこととしたいと考えています。今年度は前年同様「男女共同参画社会についての認知度の向上」ということで、全体的な視点を持って、第3次計画の策定に向けて取り組んで参りたいと考えています。

【阿部委員長】

今報告のあったとおりですが、「子どもの男女共同参画」については、より取り扱いにふさわしい形で実施できるように検討していくということで、今年度は前年度同様、「男女共同参画社会についての認知度の向上」に取り組むということでした。ご意見、ご質問はありませんか。よろしいですか。

それでは次に、昨年度の第2次石狩市男女共同参画計画の進捗状況の説明を受けます。事務局は説明をお願いします。

【事務局(清水)】

今年の6月に行った男女共同参画計画の昨年度の進捗状況調査について、今日は成果指標の進捗状況について報告します。計画に掲載した各事業の進捗状況については、現在まとめている最中で、今年度第2回の委員会で報告する予定です。では資料の2ページ目をご覧ください。全体的な傾向として、目標値に向け、右肩あがりの結果となっています。まずは「男女共同参画社会」という用語の周知度ですが、こちらは、市の総合計画の進捗状況を図るために毎年実施している市民アンケートに項目を設定して調査しています。計画初年度から実績値は伸びていますが、国の調査では、最新の調査年度である平成 24 年度調査で 63.7%であり、依然として石狩市の方が低い状況です。次に、市役所における男性の育児休業取得者の人数は、24 年度に1人のみです。次に審議会等委員に占める女性の割合ですが、まず訂正をお願いします。平成 25 年度の数値を 31.6%に訂正願います。36.2%は平成 26 年度の実績です。申し訳ありません。あらためまして、こちらも右肩あがりです。なお、国の市区平均は平成 25 年度で 27.9%です。次の市役所の管理・監督職に占める女性の割合も、伸びて 13.9%です。なお、国は同様の調査は管理職のみ実施しているため、比較数値はありません。職場・職業で男女平等と感じる人の割合は、計画策定時に実施している意識調査で把握しているため、この後で協議いただく意識調査を今年度実施し、数値が図れる予定です。次の「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」という用語の周知度も市民アンケートで調査した数値です。24 年度は少し下がりましたが、昨年度は 37.8%と、23 年度よりも増加しました。ち

なみに国の調査結果では 41.3%で、こちらも石狩市の数値は低い状況です。次の保育所の待機児童数は昨年度も0人で、今のところ目標値を達成しています。配偶者暴力防止法の認知度も市民アンケートで調査し、90.3%と継続して増加しました。ちなみに国の調査の最新値である平成 23 年度は 76%で、こちらは、石狩市は国を上回っています。最後に女性特有の病気である乳がんの検診受診率は 49.6%と、こちらも増え、目標値をもうすぐ達成するような状況です。

【阿部委員長】

ご意見、ご質問などがありましたらお願いします。

【設楽委員】

2点質問させていただきます。4つ目の項目に関連してですが、石狩市の職員の男女別の割合はどうなっているのかということが1点、市の正規職員に占める管理監督職の割合はどうなっているのかお訊きしたいのですが。

【事務局(田村)】

正確な資料をお出してお答えしたいと思いますので、後ほどお答えさせていただきます。分かり次第ご報告いたしますので、進めていただければと思います。申し訳ありません。

【阿部委員長】

お答えは分かり次第ということで、その他にありませんか。

【佐藤委員】

一番最後の項目で、乳がんの検診受診率がありますが、検査の内容と、婦人科の方はやっているのでしょうか。

【事務局(田村)】

方法というのは、触診ですとかということですね。申し訳ありませんが詳細については確認しておりませんので、議事録作成時点での回答でもよろしいでしょうか。検診の内容と、婦人科ですと子宮がんといったことですね。

【佐藤委員】

やっているのかということです。

【報告：乳がん検診の内容】

40～49 才 視触診とマンモグラフィ検査2方向

50 歳以上 視触診とマンモグラフィ1検査方向

【乳がん検診以外で市が行っている婦人科検診】

20 歳以上 子宮頸がん(子宮頸部細胞診)

【阿部委員長】

他にございませんか。今の説明の中では、石狩市と全国の市町村との比較がありましたが、石狩市民としては、むしろ一番近い札幌市と比較してどうなのかというのも多分関心があるところではないかと思います。その辺りについてももし分かれば、今回でなくて結構ですので、今後は札幌市との

比較も出していただけると良いかと思います。石狩市民は札幌市に勤めている方が多いですよね。そういう意味で同じレベルなのか、そうではないのかというのが分かると関心も持たれるのではないかと思います。その他、ご意見はいかがですか。

【岩田委員】

一番最初の男女共同参画社会という用語の周知度ですが、23 年度は 24.2%で、24 年度は 50.9%になっていて、倍くらい周知度が伸びているのですが、市の取り組みとして、特にこのことをやったので周知度が伸びたということがあれば教えてください。

【事務局(清水)】

調査の際に、平成 24 年度から国の訊き方と統一しましたが、23 年度の際の訊き方が適切ではなかったのかもしれませんが。

【事務局(田村)】

調査が、企画課が所管している総合計画の進捗状況を図る調査をもとにやっております、少し分かりにくい訊き方を 23 年度にしている、24 年度からはある程度ご理解いただけたのかと思います。23 年度までは男女共同参画社会という用語を知っているか、知らないかということだったのですが、24 年度からは「目にしたり聞いたことがありますか」ということにしましたので、意味は分からなくてもざっくりと分かっているということで、50.9%まで伸びているという分析です。

【阿部委員長】

用語は知られるようになったけれども、理解度とは違うということですね。男女共同参画社会という言葉聞いたことがあれば、はいと答えられる。理解していますかという設問が続くと難しいということですね。

【事務局(田村)】

先ほどの設楽委員のご質問にお答えさせていただきます。平成 25 年 4 月 1 日現在の実績値を元にした数値ですが、市職員全体の人数は 480 人、そのうち女性職員が 124 人ですので、全体の 26%になります。そのうち管理監督職の人数が 266 人おまして、全職員のうちの 55.4%にあたります。このうちの 37 人が女性職員ですので、13.9%ということになります。

【阿部委員長】

正職員全体に占める女性の割合が 26%で、正職員に占める管理監督職の割合が 55.4%であるのに対して、女性はその 55.4%のうちの 13.9%ということですね。使う言葉に気をつけなければいけません、圧倒的に低いですね。それを石狩市としてはどう判断するかということもあるかと思います。

【事務局(田村)】

年齢の割合でいきますと、10 代、20 代の職員の割合は男性 51%、女性 49%でほぼ半々になっています。30 代が男性 63%に女性 37%、40 代以降ですと男性が 8割、女性が 2割ということで 4対 1になっています。

【阿部委員長】

管理職になる年代になると女性の比率ががたっと下がっていますね。

【事務局(田村)】

女性全体の人数が少ないという状況は今のところ見られます。

【阿部委員長】

これは石狩市職員の場合は、女性は結婚なさると退職する方が比較的多いということでしょうか。

【事務局(三国)】

この目標に対して特段の施策の無い限りは、監督職である主査職まではほぼ同率でいく可能性はありますが、そこから先は進まないと思います。現状では部長職は女性は0人、特別職も0人です。課長職はかろうじて数人いるという状況ですが、難しいのは管理職になると、仕事に対して割かれる時間が相当になって、ワーク・ライフ・バランスと言いながらも仕事にかなり集中しなければならないということが家庭との板挟みになってしまうという現状があると思います。それともう1つ決定的なのは、女性の場合、出産というケースになった場合、職を離れますので、スキルが男性職員よりも減ってしまう。これは致し方ないところですが、対策はとなると、職を離れた時に如何にスキルを落とさないためにはどうしたら良いか、またはこれだけ IT が進んだところでどこまで組織の変化と繋げていけるか。育児休業だからといって全く仕事から離れてしまうのではなく、部分的な仕事は IT を通じて関与していくといった方策をとらない限りは、これから先も増えていかないのではないかと考えています。

【阿部委員長】

ありがとうございます。おっしゃるとおりですね。その他ありませんか。

【草島委員】

市役所の男性で今までに育児休業を取られた方は、この1名の他にいますか。

【事務局(清水)】

あと2名います。全3名について、期間は1カ月、2か月、1年です。

【阿部委員長】

男性もそうですが、女性が出産して、その後の職場復帰のし易さですが、リカレントとか、職場復帰後の研修制度など、そういうものも今後は必要なんだろうと思います。ありがとうございました。

では協議に入ります。

【事務局(渡邊)】

では私の方からご説明させていただきます。男女共同参画に関する市民意識調査と男女間における暴力に関する調査ということで、2つのアンケートを実施することとしております。今回のアンケートの配付は8月中旬に郵送で行い、回収については8月下旬に郵送によるものと考えております。9月中に集計作業を行い、10月中に分析を行いたいと考えております。調査対象の抽出方法ですが、石狩市在住の18歳以上の男女の中から、居住地区、年齢、及び男女別に計1,100件を無作為に抽出することとしています。なお世代の分け方については、これまで60歳代までの5世代としておりましたが、石狩市の人口構成や、国が20歳代～60歳代、及び70歳以上の6世代に分けて調査分析していることを踏まえ、今回は70歳代を加えた、18歳～29歳、30歳代、40歳代、50歳代、60歳代、70歳以上の6世代に分類いたします。

では、男女共同参画に関する市民意識調査票案について説明いたします。調査の目的につき

ましては前回ご説明しておりますので割愛させていただきます。設問についてですが、平成 10 年の本市意識調査から設定している設問である、「男女平等に関する意識について」、「男女の役割分担や家庭生活について」、「男女共同参画社会の形成に関する意識について」は、継続して実施することとしました。また、国の調査項目にもある「仕事と生活の調和について」も前回に引き続き、調査してまいります。

それでは、前回の調査からの変更点について説明してまいりますので、お手元の資料 1、男女共同参画に関する市民意識調査票案の 1 ページ目をご覧ください。前回の委員会でもご説明しておりますが、(4)の職業及び下段の配偶者やパートナーの就業状況の選択肢の④に専業主婦(夫)を追加しております。また、問 2 の家庭生活等について、前回までの「同感」を「賛成」に、「同感しない」を「反対」に変更し、国の調査結果と比較し易くするために、国に無い選択肢である「どちらとも言えない」を削除いたしました。次に 3 ページをご覧ください。問 10 の選択肢に⑧として「DV(配偶者からの暴力)防止法」を追加いたしました。これは、この言葉の認知度を、第 2 次計画の成果指標としているためです。また、本市の政策と関連性が薄い「女子差別撤廃条約」という選択肢を削除いたしました。問 11 について、昨今の社会情勢に合わせ、関心の高い分野及び男性の男女共同参画の視点から、選択肢に⑥「ワーク・ライフ・バランスの意識啓発」と、⑫「男性のための相談事業や情報提供の充実」を追加いたしました。一方で、「女性の学習や活動のための施設の整備」は、項目①に「学習機会の充実」という文言があり、内容が一部重複することから、削除して整理いたしました。

なお前回の会議で、問 4 と問 7 で家事、育児、介護を担う人を訊くにあたり、選択肢の①「男女とも平等に」では、「平等」より「共同」といった言葉の方が適切ではないかという点を検討することとしていましたが、他の選択肢との兼ね合いから、現状では「平等」以上の適当な言葉が見つからなかったため、今回も「平等」とさせていただきます。男女共同参画に関する市民意識調査票案については以上です。

【阿部委員長】

何かご意見はありますか。

【佐藤委員】

対象年齢が 18 歳以上になっていますが、何か決まりがあるのですか。

【事務局(清水)】

国の調査では 20 歳以上で、本市の前回の調査でも当初は 20 歳以上として設定していましたが、当時の委員の皆様から 10 代の声も聞いた方が良いのではないかというご意見をいただき、あまり対象年齢を下げても調査票の内容は難しい設問もあるので、18、19 歳まで下げて 20 代までに世代としては含めるという整理をし、今回もそれを踏襲しています。

【若林委員】

調査票で年齢を訊いていますが、調査対象としては 18 歳以上としていることを考えると、「10 歳代」かどうかを訊くのは当てはまらないのではないかと思います。

【事務局(清水)】

今回の調査票を送る対象に 18、19 歳を入れているので、回答者の属性を訊く設問でも 10 代を選択肢として入れていきたいという考えです。分析する際に、10 代は回答数としては少なくなってしまうが、属性として 10 代を分けることで生きてくるかと思えます。

【阿部委員長】

若林委員の質問と関連しますが、抽出方法のところにも各年代として 1 つ目が「18 歳から 29 歳」という区分になっているのに、調査票の設問では「10 歳代」「20 歳代」と 2 つに分けているのはなぜだろうということですね。むしろ抽出方法に合わせて「①18 歳から 19 歳」「②20 歳から 29 歳」という区分にした方が良いのではないかとご質問かと思えます。18、19 歳の数をある程度確保するのであれば分かりますが、18 歳から 29 歳に対してどれくらいという調査の仕方なので、そうすると 10 代は実際にはごくわずかになるのではないかと。

【事務局(田村)】

抽出対象としては 18 歳以上の方としていますので、「①10 歳代」と「②20 歳代」を統合する形で「29 歳までの方」というような形にすることは可能かと思えますが、これまでの分析結果などからも再検討させていただきます。

【阿部委員長】

国の調査では 20 歳以上としていて、石狩市は 18、19 歳を調査対象とするのであれば、国とは正確には比較できないですね。18 歳からとして入れるのは、多分参政権が 18 歳以上からという議論が結構あるし、処罰の対象にという議論もあって、18 歳は意見を言える立場ではないかという判断ではないかと思えますが。このあたりはもう少し検討してみてください。

【事務局(田村)】

前回の調査でも 10 代のサンプル数は極端に少なかったということもありますので、持ち帰らせていただきます。

【阿部委員長】

もしかすると、参考情報という扱いにしても良いかもしれませんね。ありがとうございました。その他ご意見はありませんか。

次に、男女間における暴力に関する調査票案について、事務局は説明をお願いします。

【事務局(渡邊)】

5 ページ目、資料 2 の男女間における暴力に関する調査票案に移りたいと思います。こちらは、前回の委員会で提出した調査票案から、設問数を大きく減らしております。前回の協議内容も踏まえ、事務局でも検討した結果、前回委員会に提示した項目数だと、男女共同参画に関する調査と合わせ、設問数が多く、全体の調査回答率が下がる恐れがあることから、全体の傾向として国の調査結果で確認できる設問は削除し、本市の実態を探る項目を残す形をとりました。また、前回の委員会で話題になりました加害者についての設問は、国においてもその対策が進んでいないため、実態調査として前回までの設問に選択肢として残すのみとしました。なお、本調査と一緒に、DV の相談窓口情報を同封していきたいと考えております。男女間における暴力に関する調査票案につ

いては以上です。

【阿部委員長】

ご意見のある方は、ご発言ください。

【岩田委員】

項目のところですが、DV というのは殴ったり、嫌がらせというのもすごくあると思うのですが、10 代といった若い年代の子たちはメールでの嫌がらせなど、ストーカー行為が多くなっているのではないかと思います。10 代、20 代についてはそういった項目を入れても良いかと思います。

【阿部委員長】

情報社会特有のというか、確かに増えてきていますね。

【事務局(田村)】

今回、10 代、20 代にお訊きする問7の(2)のところでは精神的な被害を訊いていますが、この中に交友関係を細かく監視するなどの嫌がらせという文言もありますので、この中につきまといというような項目も加えるという方向で検討させていただきたいと思います。

【袴田委員】

6 ページですが、問8の「配偶者」は「交際相手」ですね。次に5 ページですが、問2の「この5 年間に」というのは理由があったのでしたでしょうか。もっとさかのぼって被害に遭っている方もいるのではないかと思います。

【事務局(田村)】

まず1 点目の問8の「配偶者」は「交際相手」に訂正させていただきます。申し訳ありません。それから5 年間に期間を区切った理由ですが、調査時点では解決している場合もあるので、今回は直近のものを訊いて、なるべく解決に繋がるような事例の状況を訊きたいというこちら側の意図だったのですが、これまで生きてきた中でというような、今までの経緯を踏まえた上で訊いた方が良いというご意見がおありでしたら頂戴できればと思います。なお国では5 年間という訊き方をしています。

【設楽委員】

こちらの調査に関しては今年の1 月に行った昨年度第2 回の会議で素案が出ていると思うのですが、それと比較したら半減していますよね。それをシンプルな説明で、回答率が低くなるかもしれないのでといった説明がありましたが、ちょっと乱暴ではないですか。前回この委員会では、設問数を半減しろといった意見は出ていません。事務局として考えたのであれば、もう少しきちっと説明すべきではないですか。確かに男女間の暴力に関する調査というのは確かに答えにくい嫌な調査だから、先ほどの調査と合わせてやると、こちらだけ抜け落ちる可能性はあるという懸念はあると思います。でも過去に同じ調査をやっていたものを、経年変化といった時に、その設問数を半減させてしまうというのはどうかと思います。事務局として考えが変わったということなんですね。25 年度の2 回目の委員会では4 ページものの調査票を出したけれど、今回は2 ページものですよ。もう少しきちっとその経緯を説明してください。

【事務局(清水)】

まずは説明が足りず、申し訳ありませんでした。前回の会議の中で、そもそもアンケートというもの

は答えていただきづらいものなので、設問数が多いと更に答えていただきづらくなるのではないかと
いうことで、皆様にご議論いただいた記憶がございます。その後事務局に持ち帰りまして検討いた
しまして、1つの調査票として8ページものにまとめた時に、やはりこれでは設問の量が多いのでは
ないかと考えました。そこで、まず今回の調査の主たるものとしては男女共同参画に関する調査に
なりますので、これについて設問を削除するのは難しい。そうすると、今回初めて市として取り組ま
す男女間の暴力に関する調査票に手を付けざるを得ないという結論に達しました。ではどの設問を
削るのかということですが、この機会を使って石狩市の実態を調べていきたいということで残したの
が今回の調査票の設問です。一方削除したのは、先ほどもご説明しましたが、「何故相談しな
かったのですか」や「あなたは何故別れなかったのですか」といった設問で、その回答の傾向が、石
狩市特有というのではなく、全国的なものではないかという判断をいたしました。これらは国が同様
の調査をしていますので、その回答を参考にしていくということで考え、今回の調査票案としてご提
案させていただきました。

【設楽委員】

前回提示された7ページ目の設問について、私のメモには石狩市の前回からの設問というメモが
あるのですが。

【事務局(清水)】

説明が足りず申し訳ありません。平成 21 年度の意識調査の中で「男女の人権について」という章
がありまして、その中で一部ですが DV を扱っています。それ以外はセクシャル・ハラスメントなど
といった別の人権についての項目でした。前回の調査で設定した、DV に関する数少ない設問につ
いては、今回も継続していきます。更に加害者の件につきましても、前回の会議の中でもっと加害
者について動機などを訊いた方が良いのではないかというご意見をいただき、私どもも全くその通り
だと思っているのですが、設問数が限られているということと、国でもなかなか施策を実施するのが
難しいとしていることを踏まえまして、前回の意識調査の中で扱っているとおり、加害者になったこ
とがある、DV をしたことがあるという設問のみを今回残しました。

【事務局(三国)】

どの設問を削除したのかをご説明しないと分かりづらいと思いますので、あらためて説明させま
す。

【事務局(清水)】

本日、お手元に前回の資料はお持ちいただいていますでしょうか。まず問 1 については、項目を
少し削除しています。「(2) 足でける」、「(5) 刃物などを突きつけて、おどす」、「(7) 見たくないのに、
ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる」を削除し、DV 被害において代表的な項目を残しています。問
2、問3は残しました。問4「どこ(だれ)にも相談しなかったのは、なぜですか」、問5「あなたは、あ
なたの配偶者からそのような行為を最初に受けたころ、どうしましたか」、問6「あなたが、相手と別
れなかった最も大きな理由は何ですか」、問7「もしあなたが配偶者等からの暴力の被害にあったと
きは、どこ(誰)に相談しますか」、問8「では、あなたの配偶者に次のようなことをしたことがあります
か」を削除しています。問9「あなたはDVについて身近で見聞きしたことがありますか」を残していま

す。ここに④として「自分が加害者になったことがある」という選択肢を前回の調査同様に追加しています。問 10「あなたは、DVについて相談できる窓口を知っていますか」は残しています。問 11「男女間における暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと考えますか」は削除しています。問 12「交際相手はいますか」、問 13「あなたは、10～20 歳代に、交際相手から次のようなことをされたことがありますか」は残しています。そして問 14「あなたは、交際相手からそのような行為を受けたとき、どうしましたか」、問 15「あなたが、相手と別れなかった最も大きな理由は何ですか」、問 16「では、交際相手に次のようなことをしたことがありますか」、この3つの設問は削除しています。説明が不足しており、申し訳ありませんでした。

【事務局(田村)】

今回削った項目ですが、例えば「相談をしなかったのはどうしてですか」と理由を訊いて、では私たちに何が出来るのかといった、施策に繋がるようなものは削除させていただきまして、実際に石狩市にいらっしゃる方たちがどの程度 DV に直面しているのかという実態をまず知りたいということ。そこに重点を置いて、調査をさせていただきたいと考えております。まだ調査票の内容は確定ではありませんので、ご意見を頂戴できればと思います。

【設楽委員】

結果的には分かりますし了解しますが、そうすると 25 年度の2回目の委員会というのはどういう位置づけなのかということに疑問に思います。提起も無いのに、行政側だけの都合で、わたしが質問しなければ最後まで説明もなされないという姿勢は、都合の悪いことは言わなくても良いのではないかとということではないですか。そこまで考えてはいないと思いますが、そう取られても仕方ないような事務局の提起の仕方だったのではないかと思います。私どもも委員としてチェックしなければならぬということももちろん大事ですが、その辺りは信頼関係に立って、大幅に変えるのであれば、きちんとした説明をするとか、書面にも書いておくとか。この(2)の男女間における暴力に関する調査票(案)について、会議資料には前回から変えましたが何も書いてないんですよ。これはひどいんじゃないかと思いましたので、述べさせていただきました。

【事務局(三国)】

只今のご指摘ですが、私も真摯に受け止めて、次回からは徹底してまいります。この度は申し訳ありませんでした。

【阿部委員長】

それではこの案について、その他のご意見はありませんか。

【若林委員】

調査票の問1の設問内で、項目が(1)から(11)になっていますが、これは(1)から(8)ではないですか。

【事務局(清水)】

ケアレスミスです。(1)から(8)です。申し訳ありません。

【事務局(田村)】

前回の調査票の設問1の項目の中から、「(2)足でける」、「(5)刃物などを突きつけて、おどす」、

「(7) 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる」という3つの項目を外したことで、設問内の数字の修正を忘れておりました。申し訳ありませんでした。

【阿部委員長】

他にご意見はありませんでしょうか。もし無ければ、その他に入ります。今後の事業について、説明をお願いします。

【事務局(清水)】

会議資料の3ページ目をご覧ください。8月下旬には、本日協議いただいた市民意識調査を実施します。9月7日(日)には京都府から100名の女性がやってくる、京都府女性の船という事業が行われます。これは京都府主催の事業で、地域づくり・NPO活動等に関心のある女性や、職場でさらに能力を発揮したい女性に、学習とネットワーク構築の機会を提供し、活躍する女性リーダーを育成することを目的とした事業です。今年で34回目を迎えるとのこと。残念ながら男性はご参加いただけないのですが、本委員会の女性委員にはぜひ参加いただければと思います。今日の会議終了後、女性の委員の皆様は、私のところにお越しいただき、参加の可否と関心のあるテーマをお聞かせください。次に、11月29日(土)には男女共同参画ワークショップを予定しています。このワークショップは、第3次男女共同参画計画策定に向けた自由な意見交換の場として開催するものです。日程が近づきましたら具体的な内容等、ご案内しますが、今から日程を調整していただければと思います。また資料には記載していませんが、12月には本委員会の第2回目を開催し、第3次計画の策定に向け、市長から本委員会に対し、提言の依頼がある予定です。最後に他団体等の主催事業となりますが、10月17日(金)から19日(日)に、日本女性会議が札幌コンベンションセンターで開催されます。こちらは今回で31回目を迎えますが、今年初めて北海道で開催されるとのこと。内容は今日皆様のところにパンフレットを置かせていただきました。こちらもぜひ参加いただき、ご報告いただければと思います。

【事務局(田村)】

日本女性会議については、それぞれのお申込みでお願いいたします。

【事務局(三国)】

日本女性会議には男性も参加できます。また札幌市での開催は、今後しばらく無いと思われま。事務局で参加者を募って集約したいと思いましたが、参加費の振込が必要であることや先着順ということで、残念ながら難しいようです。

【事務局(田村)】

実際に申込期間も始まっております。阿部委員は過去に参加されていらっしゃいます。

【事務局(清水)】

既に申し込みを締め切っている分科会もありました。もしよろしければ参加の申し込みをお願いします。

【事務局(田村)】

それから京都府女性の船に関してですが、船に乗って京都の女性たちが来るのですが、船の中でお勉強をなさりながら、いろいろと交流もしながら小樽市に到着しまして、翌日に小樽市から石狩

市に入ってこられるのですが、北コミでテーマ設定をしまして、幾つかの分科会に分かれて、その中で 10 人から 15 人で意見交換をするそうです。コーディネーターが入るとのこと、かなりお話ししやすい状況で参加いただけるのではないかと思います。皆さんでお弁当を食べながら、和気あいあいとお話できるかと思いますので、女性の委員の皆様のご参加を是非お願いしたいと思っております。よろしくお願いいたします。

【阿部委員長】

日本女性会議の分科会の 1 には、『おひとりさまの老後』などを書いた上野千鶴子という、大変有名は東大を退官した方が出ていますね。既に申し込みが始まっているとのことなので、関心のある方は是非個人で申し込んでいただければと思います。

以上で予定されていた内容は終わりです。次回の会議はいつ頃ですか。

【事務局(清水)】

12 月頃を予定しています。日程が近づきましたら、日程調整の連絡をいたしますので、よろしくお願いいたします。

【阿部委員長】

全体でその他、ご意見等はありませんか。無ければ、以上をもちまして、平成 26 年度第 1 回石狩市男女共同参画推進委員会を終了します。ありがとうございました。

平成 26 年 8 月 22 日 議事録確定

石狩市男女共同参画推進委員会

委員長 阿部 包